

平成30年 **1 2** 月の大阪森林便り

目次



月の木の話

木材が腐る環境をつくらないことが肝心

- (1)  北米産丸太値下がり 11月積み 日本向け3か月連続
- (2)  バイオマス発電 地元の木材使う 山間に展開



今月の木の話



木材が腐る環境をつくらないことが肝心

- ・木材が腐るのは、木材の主な成分であるセルロースを、分解して栄養とする木材腐朽菌が、木材の中に侵入し繁殖するから。
- ・木材は炭水化物ですから、菌類や虫類に犯されやすい性質をもっています。
- ・木材の腐朽菌は温度 10~40 度くらい、湿度 80%以上で最も活発に活動します。
- ・木材の含水率が 50~100%の範囲が木材腐朽菌の繁殖に最も好条件。
- ・含水率が 15%以下になると腐朽菌は繁殖できません。
- ・含水率が 150%を超えると、木材の中の水分が多すぎて酸素が欠乏するため、腐朽菌は生きていけず木材は腐りません。丸太を水に浮かべて貯蔵するのはそのため。
- ・湿度と酸素が十分にあっても、温度条件がよくなければ腐朽は起こりません。
- ・腐朽菌は、5 度以下または 40 度以上では生育できません。
- ・腐朽菌は湿度・温度・酸素の 3 条件が整わないと生きられないので、木材を腐らせないようにするには、3 つのうちのどれか一つの条件をはずすことです。
- ・木材を腐らせないためには、第 1 に十分乾燥して湿気を除くこと。
- ・湿気を運びやすい所に使う場合は、防腐剤を注入、塗布するなどの防腐処理を。

(日本林業調査会「木材に強くなる本」より抜粋)



(1) 北米産丸太値下がり 11月積み 日本向け3か月連続

- ・北米産丸太の日本向け輸出価格が3か月連続で下落。
- ・住宅投資が鈍る米国で製材品の価格が大幅に下がりました。
- ・11月積みは前月に比べ5%安くなっています。

(2018年11月9日 日本経済新聞記事から抜粋引用)



(2) バイオマス発電 地元の木材使う 山間に展開

林業再生、仕組みづくり

- ・エネルギー関連事業を手掛けるシン・エナジー（神戸市）は、木質バイオマス発電所の中山間地での展開を始めました。
- ・地元企業と共同出資会社を作り、小型の発電所を整備。
- ・燃料となる木材を地元から調達する地産地消型で林業再生も目指します。

(2018年11月29日 日本経済新聞記事から抜粋引用)

